

スネイク創外固定器

SK-1000



主な適応症：橈骨遠位端骨折

- ピンの刺入は橈側ではなく尺側から行えるため橈骨神経損傷を避けられます。
- Transulnar percutaneous pinningよりも手術後の前腕の回旋制限を少なくすることができます。
- ボールコレットによりピンの刺入方向が変えられるので3次的に骨片を保持できます。
- 細いSピンにより応力を分散できるのでosteoporosisでも固定できる症例もあります。
- 創外固定器の重量はわずか17gです。

スネイク創外固定器 SK-1000



スネイク創外固定器 SK-1000

外形寸法 ◆ W78×D18×H20 (mm)

重 量 ◆ 17g

届出番号13B1X00142000024

六角レンチ 2mm
(TL1-14)

Sピン SS81-1.6-140/4



Sピン SS81-1.6-140/4

ピ ン 径 ◆ φ1.6mm

全長/ねじ長 ◆ 140mm/4mm

タ イ プ ◆ セルフタッピング セルフドリリング

材 質 ◆ ステンレス鋼

承認番号21400BZZ00286000

注意事項

- 必ず滅菌をしてください。本製品は未滅菌です。
- また滅菌時には すべてのねじをゆるめ、エチレンオキサイドガス滅菌(8時間以上)もしくは、高圧蒸気滅菌(121℃ 20分または126℃ 15分)をしてください。
- ディスポーザブル品です。1症例に対してのみの使用となり再使用はできません。
- 本器の使用にあたってはピン刺入前に整備されていることが前提となります。
- Sピンの刺入に際しては、後骨間神経損傷及び各伸筋腱を巻き込まない様に注意して下さい。

基本手術手技

- 腋窩ブロックまたは静脈麻酔でおこないます。
- Finger trapを用いて術前、術中に牽引しておくこと整復位が得られやすく、ピンの刺入も容易です。
- ピン刺入時は手術後の回外制限を防ぐため、可及的に回外位で行う事をお勧めします。
- 以下の点に留意し最終的な仕上がりを想像します。
 - ・最遠位のピンは遠位橈尺関節を避けられる範囲でなるべく関節面近くに沿うように配置する。
 - ・刺入方向は橈骨背側面に対して平行な方向ではなく、角度をつけ刺入してSピン先端が茎状突起の掌側に集まってくるようにする。
 - ・尺骨手根伸筋の背側から刺入し、後骨間神経を損傷しないように気をつける。
- ピン先端のスレッドは必ず反対側骨皮質を捉えるまで刺入します。先端は骨から出ないようにします。
- 2本目からはスネイク創外固定器をガイドとして7本のピンを刺入します。
- 使用しなかったボールコレットには、Sピンの切れ端などφ1.6mm径のものを挿入しておく必要があります。
- 最後に各クランプのねじを締めしっかり固定します。
- 術後は原則的に外固定は行わず、Dobynの6pack exercise等の手指運動および手関節の屈曲・伸展の他動・自動可動域訓練を開始します。

改良などの為、予告なく変更することがありますので、ご了承下さい。

製造販売元


株式会社 エム・イー・システム
〒164-0013 東京都中野区弥生町2-13-4
TEL 03-3375-6767 FAX 03-3375-8011

代理店